

がいる模様である。星野少佐は脱出の交渉をするため伝令に山崎君と私を連れ、相手の司令部へ。八路軍で、約四万の兵力である。決裂すれば私達は即死であろうと思ったが、それ以上の恐怖心は不思議に湧かなかった。(つづく)

余田和雄様の訃報

久保田恵一(413歩兵・勲長男)
永年近畿五九期生会の中心として活躍されていた余田和雄様(212航戦)がこの6月28日に亡くなられました。

二世が『近畿五九懇親会』に初参加したのは、平成26年からでしたが余田様のご指導の下、二世会が編成され平成29年には会の運営が、すべて二世会に移行されました。その後は顧問として運営への指導と助言をされ令和元年まで毎年五九期生と御婦人方と二世が集まる楽しい会を催すことが出来ました。

残念ながら令和2年のコロナ禍と正会員の超高齢化で、懇親会は消滅となりましたがその後余田様とは共に毎年近畿偕行会総会に参加した、ただ一人の陸士出身者であり大先輩としての貫禄を目の当たりにしてきました。今年の総会に参加されなかったので気にしていましたが、まさかの訃報に時代の流れを感じざるを得ません。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。
大阪防衛協会記念講演会に参加して

久保田恵一(前掲)

本年6月8日、大阪防衛協会事務局の河田稔氏のお誘いでホテル阪急インターナショナルでの総会後の記念行事・懇親会に参加し、髭の隊長こと前参議院議員佐藤正久氏の講演『激動の世界情勢と日本の防衛策』を拝聴しました。

中国の防衛費は日本の約5倍で、年々増加していて共産党軍事委員会の中で台湾侵攻に懐疑的なトップ二人が粛清され台湾近郊の軍事演習も活発化しており、アメリカとイランの対立によるホルムズ海峡の封鎖は決して他人事ではないというお話がありました。中国大陸から見た東アジア地勢図では正しく日本列島から、台湾・フィリピンが中国を囲む太平洋の壁になっているのが解ります。

そのような環境の中、日本は一刻も早く足元(憲法)を固め、「自らの国を自ら守る」体制構築が急務で、3つのアプローチ①防衛体制の強化(宇宙・サイバー・電磁波等々)②日米同盟の抑止力・対処力強化③同志国との連携強化が必要だと提唱されました。

講演の後には懇親会があり佐藤正久氏、制服自衛官を含め自衛隊を応援する多くの方々との親交を深めて参りました。

六十期

士60期(土) 軍60期(日)
経9期(北野) 担当者 達也

六十期元代表 田中正和君を偲ぶ

世話人会 総務 甲斐啓一
昭和47年、代表幹事交替制による新体制確立から平成26年暮引きまでの同期生活動最盛期、田中君は、平成16年に代表幹事に就任しました。「入校60周年 振武台の集い(353名参加)」では、ミ二入校式の寸劇を上演し好評を博しました。「みちのくの恵みを楽しむ秋田全国総会(473名参加)」では、秋田の民謡と踊りのオンパレードで、最後は秋田民謡を皆で歌って盛り上がりました。

平成27年、同期生会は、親睦を目的として世話人会が運営に当たるゆるやかな組織に改編されました。同期生が90歳代に入ると、死亡や健康不全が増え、田中、川島、甲斐に北野2世、杉2世が新たに助力する5人体制となりましたが、田中代表幹事は労を厭わぬ貢献で、常幹世話人会の敬仰の的でした。

好事魔、令和5年2月、自動車事故により、気力体力が低下して歩行も難しくなり、代表を辞任しました。八王子のホームに入居して3年余りが過ぎた令和8年5月、点滴で命をつなぐ状態で厳しいとの報せがご長男に入り、同月23日、同行してお見舞、25日には奇跡的に満99歳の誕生日を迎えましたが、翌26日夜、逝去されました。

六十期の巨星墜つ、嗚呼、輝かしい貢献、何人も大事にする交友に、心からお礼を申し上げます。安らかに眠りくだ

さい。

令和8年7月益

合掌

陸士六十期世話人会のメンバーの一人、田中正和様が先日ご逝去されました。私が田中様に最初にお目にかかったのは、確か十年前程前に開催された「多摩六十期会」の会合であったと記憶しています。当時、介護型病院に入院していた父の代わりに参加したのですが、十数名の出席者の方の中でも、田中様の印象は最も強く残っています。とにかく声が大きくよく話される、お酒を召され、肉料理をべろりと平らげる…やはり戦争を経験された方は迫力が違うと痛感したことを今でもはつきりと覚えています。その後も数回親しくお声をかけていただきましたが、他界されたと聞いて残念で堪りません。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

担当…杉 正治(陸士六十期二世会)



令和8年度

茨城偕行会総会

事務局長 佐々木 克徳 陸自71

茨城偕行会は、6月19日(金)「茨城県護国神社」において令和8年度総会を開催した。本年度の総会参加者は、来賓5名、会員14名の合計19名となった。

開会に先立ち、護国神社本殿に昇殿、正式参拝を行った。参拝後には林竜司宮司より御礼の挨拶があり、全員気持ちを新たに総会会場の参集殿に移動した。

10・30大田保重副会長(陸自71)の司会で総会を開始した。国歌斉唱、戦没英霊・殉職自衛官・昨年の逝去会員に対し黙祷を捧げた後、山根峯治会長(陸自70)の挨拶に引き続いて、来賓の長島修昭茨城県隊友会会長、小原大森英霊にこたえる会会長、高橋正尚後方支援学校武器科部総務課長からご祝辞をいただいた。

議事は、議長を山根会長、説明を佐々木事務局長が務め、令和7年度事業報告・収支決算(1、2号)、令和8年度事業計画・収支予算(案)(3、4号)の全ての議案について原案通り可決された。

第2部の記念講演は、11・15より茨城地方協力本部長の大谷雅之1等陸佐による演題「防衛力の改革の方向性」を拝聴した。日本を巡る厳しい安全保障環境下、防衛省が鋭意検討を進めている防衛力整備の状況について多くの画像をもとにわかりやすく紹介・説明がなされた。会員一同、平素より関心の強い内容に真剣に聞き入っていた。



茨城地方協力本部長 大谷雅之 1等陸佐による講演

12・30からの懇親会では、河野廣行副会長(陸自74)の司会で開始された。初めに大高哲男名誉会長(陸自66)より映画「ペリリュー・楽園のゲルニカ」のモデルとなった歩兵第2聯隊(水戸の郷土連隊)の関係史料展示会の開催について紹介がなされた後、小野一也施設学校副校長に挨拶をいただき、懇親会食へと移行した。

懇親会では、司会の指示に従って参加会員の自己紹介や近況報告等が行われた後、記念講演内容や部隊の現況等についての質疑応答が活発になされるなど、情報・意見交換に会場が盛り上がりを見せる中、所定の時間となり、すべての行事

が無事締めくくられた。

参加者一同、今後予定されている終戦記念祭、茨城県特攻戦没者慰霊祭等での再会を約して、会場を後にした。

前出以外の出席者(敬称略)

小森重信(陸自65)、小林真臣(陸自66)、吉岡昭彦(陸自86)、坪沼浩(陸自01)、齋藤勝彦(陸事務官)、齋藤英夫(陸事務官)、永井勇(賛助)、小川直也(賛助)、岡野安治(賛助)



青森県偕行会
「第4回弘前忠霊塔例大祭」等に協力

会長 稲村孝司 陸自75

7月26日「第4回弘前忠霊塔例大祭」が行われた。遺族会や県偕行会、県隊友会、弘前駐屯地などの関係者や国会議員秘書、県議ら約60人が参列し、戦没者を供養するとともに平和への祈りを捧げた。

県偕行会は、例大祭への協力は勿論、前日の同塔周辺の草刈り清掃奉仕にも現役自衛官70名の支援を得て協力した。同草刈り清掃奉仕は一昨年から例大祭前日に行うこととなっていた。草刈り清掃が終わった会場では、テント張り等の例大祭準備にも汗を流した。テントは昨年までは学校での運動会等で使われている鉄パイプの八本支柱の重いものだったが、「忠霊塔を守る会」で新たに高齢役員でも立てられるテントを購入し、作業は容易になった。テント張りの後には、来賓者用の椅子、一般参列者用のパイプ椅子を並べ、忠霊塔本堂での慰霊行事の中心となる、弘前市を代表する長勝寺、本行寺、海蔵寺及び盛雲院の四住職による読経の準備を行った。

例大祭は、梅雨空の下、午前9時から準備に取り掛かり、午前11時からの国歌斉唱に始まり、慰霊行事として四住職の読経により戦没者の慰霊が行われた。読経の間、参列者は本堂で順次焼香を行った。引き続き、例大祭式典に入り、須藤忠霊塔を守る会会長の挨拶、来賓として弘前市長代理、木村次郎衆議院議員代理、